

オミナエシ

Patrinia scabiosifolia Fisch. ex Trevir.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

手入れの行き届いた土手は好適な生育地であったが、現在では放棄された場所が多く、遷移も進んで、自生地は非常に減少している。

分布

北海道～九州に分布し、県内一円で記録がある。

種の特徴

日当たりの良い草地に生える多年生草本。夏までは根出葉だけを伸ばし、その後花茎を立てる。茎は高さ60～100cm、下部に毛がある。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。花期は8～10月。黄色い花を多数咲かせる。

生育を脅かす要因

土地造成、草地開発や、自然遷移の進行による環境の変化が生育を脅かす要因となる。花がきれいいため園芸採取の対象となりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1998）

| 市町別生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

オオキンレイカ

Patrinia triloba (Miq.) Miq. var. *takeuchiana* (Makino) Ohwi
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県および京都府の特産。産地が局限され、個体数が極めて少ない。

分布

本州（本県、京都府）に分布する。

種の特徴

集塊岩上に野生する多年生草本。茎は高さ50～100cm。葉身は広卵形で掌状に5～7深裂し、裂片は細い。花期は8～9月、1cm弱の小さな黄色い花を咲かせる。

生育を脅かす要因

産地が局限。生育基盤が脆弱で踏圧等によって減少するおそれがある。花がきれいいため園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1997）

| 市町別生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | |

マツムシソウ

Scabiosa japonica Miq.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

草地の開発によって生育環境となる草地が減少し、めったに見られなくなった。

分布

北海道～九州に分布する。県内では奥越地方に自生する。

種の特徴

山路の日の当たる乾いた草原に生える多年生草本。茎は直立し、高さ60～90cm、葉は対生し羽状に分裂する。茎の上方に頭状の花序をつける。花序は数多くの淡紫色の小花からなる。

生育を脅かす要因

草地開発による生育地の消失、自然遷移、園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1998）

| 市町別生育情報 | 若狭町 | おおい町 | 高浜町 | 美浜町 | 小浜市 | 敦賀市 | 越前町 | 南越前町 | 池田町 | 永平寺町 | 坂井市 | 越前市 | あわら市 | 鯖江市 | 勝山市 | 大野市 | 福井市 |
|---------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | |